



ぼらんていあ通信

11月号
通巻 No.432

発行 / NPO法人 相模原ボランティア協会 2017年11月21日

連絡所 〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20 あじさい会館・中央ボランティアセンター内

TEL/FAX: 042-759-7982 Eメール: sagamiva@feel.ocn.ne.jp HPアドレス: http://sagamivainfo/

外出援助コース



コース別講座も、順調に進んでいます！

九月十一日～十月十日 全五回

*その会の会員である杉崎さん
に、研修の様子を伺いました。

その会が担当。障がい者の現状・障がいについては真リハビリテーションライイトホーム職員にお願いしました。

今日は三回目、とても緊張する外へ出たの
実技です。市役所前からバスで相模原駅
まで、乗る降りには足もとに注意、何と言
っても声掛けが大切。カードをタッチ、ま
たは整理
券を取る
位置を知
らせます。
駅に着
き、エス
カレーターで上へ。乗る込む距離感がちよ
っとむずかしく足を踏みかえるようでした。
上りか下りかを生け、「乗りますよ、ハ
イ」と声かけをしっかりと。切符は、障がい
者と一緒の時は子ども一枚を買い、一枚ず
つ入れ改札を通ります。いよいよ一番気を
つかう電車に乗る橋本まで行きました。電
車とホームの段差、足置き具合(ちよっと大
きくまでいい)等を伝え乗り込みます。



足元に注意して！

一人歩行の障がい者のホームでの事故が
先日も報じられていました。一人での歩行
は本当に気をつかい真剣でしよう。介助者
がいることは、どんなに安心感があること

でしょう。そのためにも、しっかりと誘導し
なければなりません。帰りは交替して戻っ
てきました。

今日の外での訓練は、受講者の三人にと
っては、とても神経をつかい疲れたようで
した。

この
後は、
視覚障
がい者
関係のボランティアグループの点訳・音声
訳活動を見学、今年度出来た視覚障害者情
報センター見学、そして最後は障がい者入
ホーツ体験で修了です。



「乗りますよ」と声かけを！

活動に結びつけてくださったことを願って
います。

高齢者支援コース



九月四日～十月十八日 全五回

九月四日(月)から始まった高齢者
支援コースが十月十六日(月)に修
了式を迎えた。受講生三名は高齢者
の心と身体について基本を学び、ボ
ランティア活動の基礎ともなるリネ
ン交換や衣服の着脱の実技、傾聴活

動の講義と体験談等を伺い、四回目は施設
実習に臨んだ。今年は上清(奥平)にある「サイ
パス」です。我が家下溝本町(奥平)で食事介助
や入浴後のブロー、話し相手など「サイサー
パス」の一日を体験してもらった。傾聴の講



たきがわ
師瀧川さんから「グループに入って活動す
ることをおすすめます。悩みも喜びも共
有できるから」とアドバイスをいただいた。

修了式ではシルバー友の会の活動の様子
を伝え、感想および今後の抱負を伺った。

菅原さん…今まで知らなかった分野で、

実習は不安があったが先輩のお手本を見な
がら体験できた。利用者さん(高齢者)に
はさまざまな方がいると感じた。自分のあ
いた時間で活動しようと思う(会として大
いに期待しています。入会されました。

藤田さん…一番印象に残ったのは施設実
習。多数の人が一室にいるのを見たのは初
めての経験、世界が違って見えた。以前か
ら近くのボランティアセンターに登録して
活動している。車いす介助を習ったのでさ
っそく近所で実践した(これからも大野中
地区で活動される予定です)。



会議室のテーブルをベッドに見立て、人が寝た状態でのシーツ交換の方法を学ぶ受講生

森本さん…介
護関係で働いて
いた経験と施設
実習の体験を生
かして地域で何
ができるかじっ
くりさがしたい。

傾聴活動もしてみたい(ご自分に合った活
動が見つかるといいですね)。

最後にボランティア協会の小野理事より
修了証をいただいた。三名でも皆勤なれ講
座を担当した一人として、
とてもうれしかったです。

(三十七号)



ボランティアとして参加①

楽しい温かい雰囲気の中であつた。

第二十回 東林ふくしまの開催

ー ボランティア協会もHCC号体験に参加
肌寒い雨の中、去る十月二十九日(日)午前
十時から午後三時にかけて東林公民館で東林
ふくしまの開催された。スタンラリー
を楽しみながら、高齢者、視覚障がい者の誘
導や卓球、手話、点字、車いす操作などの福
祉体験の他、反応ゲーム、映画会、おもちゃ
の病院などのプログラムも組み込まれてい
て、遊びながら自然に障がい者や高齢者への
温かい気持ちがあつたように工夫されている。

ボランティア協会から「車いすでHCC号に
のってみよう」のコーナーに、児玉さん、
佐々木さん、町田さんの三人の男性が協力さ
れていた。児玉さんは「例年はHCC号二台で
参加しているが、生憎の雨のため、介護施設
デイサービスセンター東林間シアクラブの
HCC号一台だけ」だそう。公民館一階大ホ
ールと第一駐車場をつなぐ入り口に、雨よけ
のブルーシートを張り、次々に訪れる参加者
に丁寧にやさしく指導されていた。

雨は小じりになつてもすべにザッと激し
く降り出すという悪天候の中だったが、友達
同士の小学生、父親と子供、
母親と子供など親子連れで
訪れ、すつかり地域に根差
した行事になつていふよび感
心なせられた。(高) (高)



ボランティアとして参加②

第二十一回日本盲人会連合関東ブロック協議会

視覚障害者サウンドテーブルテニス相模原市大会

十一月十一日(土)～十二日(日)にかけて、け
き体育館で開催されました。

十時半には各市の選手、応援団の方々が集まっ
てきました。相模原駅へは相模原のボランティアが迎えに
出ました。

十三団体約二百名(選手八十名)は、群馬、栃木な
どからも参加。

八代相模原市視覚障害者協会会長が実行委員長で、
延べ二百二十名のボランティアのもと「ガンバルッ
ー」の八代会長の挨拶で始まりました。

一日目は個人戦で、体育館に三コート、訓練室に一
コート。十二時開始で午後六時頃まで行われました。
指定のラバーのないラケットとアイマスク、立つ位
置、中心を確認し、「ブレー」の審判員の合図後、「い
きます」「はい」と始まりますが、その時球(音の出
る球)が少しでも動いてはアウトになります。ネ
ットの下の打ち合います。耳をそばだてて方向を探しま
す。応援も静かに観戦します。

一日目は個人の決勝と三人ずつの
団体戦。神奈川県と埼玉県の対戦。
埼玉県が優勝しました。

この時はやはり最後でしたので
大勢の拍手と喜びの歓声にわき立
ちました。

皆さんとても元気で、なごやか
にふい交流の機会だったようです。
(杉) (杉)



12月の記念日は？

小倉義男

12月20日は、ブリの日です。
魚へんに師でブリ「鯿」と書くことや、ブリの旬が師走であるとさ
れていること。そして2(フ)、0(リ)のゴロあわせから12月
20日がブリの日となったそうです。ブリの語源には諸説があるそ
うです。あぶらの多い魚なので「アブラ」の「ブラ」が転じたと
言う説。古くは火にあぶって食べたので「あぶり」が略されて「ぶ
り」になったと言う説。身が赤くて「ブリブリ」しているからと
いった説など、これという説はないようです。
また、イナダやハマチ、メジロなど、大きさ
によって呼び名が変わる出世魚でもあること
でも有名ですね。でも、ブリっ子はどう
なんでしょうね？
小倉画



クイズに挑戦

大人がうっかり間違える日常漢字の読み方問題です。

◆正しく読めていますか？

① 貼付 ② 出生率

◆うっかり間違えやすい漢字です。

- ③ 漸く ④ 凡例 ⑤ 強が ⑥ 遵守 ⑦ 肉汁
 - ⑧ 依存心 ⑨ 礼賛 ⑩ 御用達 ⑪ 雰囲気
 - ⑫ 鑑みる ⑬ 思しい ⑭ 掛る ⑮ 直向み
- ◆最後はちょっと難しい漢字です。

- ⑯ 惜敗 ⑰ 手繰る ⑱ 目取へ ⑲ 徒らなる ⑳ 残す
- * 読みかを探して、ペースをあげていってください。



ほっこりな♡ぼらんていあ (4)
フラダンスボランティア「プルメリア」

アロハ（ハワイのご挨拶）

私達プルメリアは、フラダンス・ギター・ハーモニカ・アコーディオン・踊り・歌・体操と盛りだくさんのボランティアチームです。

活動を始めて、早いもので十数年以上になります。現在はシルバータウン相模原特養老人ホームの認知棟に一回、デイサービスに一回と毎月三回おじゃまして活動させていただいています。

登録メンバーは二十名で、それぞれ忙しい人々の集まりです。「当日参加できる人」のいたってシブシブなチームですが、毎回十名ほど集まります。一か月前に日程が決まり、最終プログラムは当日出席のメンバーで三十分前に決まります。

歌は利用者様の中に歌手がたくさんいらっしゃいますので、楽器の演奏に合わせ、童謡・民謡・歌謡曲・ポップス・その他をみんなで楽しく歌っています。

私たちは「笑顔・スマイル」をモットーに、皆さんと「共に楽しむ」を考えて行動しています。一時間という短い時間で十五曲ほど歌い、踊り、体操と目先を変え進めています。男性はアロハシヤツ、和踊りは着物で、華やかでにぎやかです。開始時はバットにいた人も起きてきて、仲間に入り、楽しんで頂き、最後に「楽しかったよ」「また来てね」と笑顔で言われると、頑張る力が湧いてきます。

「これからも皆さんと協力し「楽しさ」を追求しながら長く続けられるよう努力していきたいと思っています。」

アロハ



- 1 ふるさと
- 2 月の砂漠
- 3 ああ人生に涙あり
- 4 プルメリア体操
- 5 フラ（四季の歌）・踊り
- 6 港町13番地
- 7 旅の夜風
- 8 フラ（プアマナ）・踊り
- 9 青い山脈
- 10 お富さん
- 11 憧れのハワイ航路
- 12 フラ・踊り（アロハ、ウクレレ）
- 13 旅姿三人男
- 14 月がとっても青いから
- 15 フラ（南国の夜）

フラダンスボランティア（プルメリア）代表；中山文子さん
お問合せは シルバータウン相模原特別養護老人ホーム
Tel 042-755-0301（遠藤様）

理事会報告

十一月一日（水）十二時半から（理事七名出席）

委員会報告

◆広報委員会

・ぼらんていあ先一部追加、新HP関連、わくわく全面見直し検討

◆ハンディキャップ委員会

・南地区で新車当選獲得時の説明会を、今後のスケジュール等

◆講座検討委員会

・春講座（傾聴）、夏講座（基礎）の日程計画

◆傾聴委員会

・交流会実施報告、傾聴利用者の拡大策を検討

◆その他報告

・サウンドテーブルテニス大会のリハーサル実施報告と十一、十二日の大会について
・冬のほかれ（十一月九日）計画について

審議事項

◆新ホームページ関連

・会長よりの指示があり検討を行った。

◆ぼらんていあコンセプトを南社協より問われた件について審議し、広報委員会（九月開催）の審議結果を確認した。

◆わくわくの編集内容と体裁の変更案の説明を受け了承した。

◆会員名簿の取り扱いについて再確認した。

その他

・新春ボウリング大会は二月十七日（土）
・免許返納者に関する実行委員会十一月二十八日（火）警察署で開催 吉留理事出席

次回理事会 十二月六日（水）十二時半から

イベント情報

あじさい会館「笑い講座」

「暮らしにも「笑い」を」笑いの健康学
ユーモアコミュニケーションで
ハッピーに〜

日時：十一月八日(金) 午後一時半〜三時
場所：あじさい会館 六階展示室

内容：最近、笑いましたか？「笑い」は「生活に潤いを与えてくれるだけでなく、元気になる」ことも科学的に証明されています。更に人間関係が「ハッピー」になる「間違いない」！
今、「笑い」を意識してみませんか。忙しい年末も「笑顔」で乗り切り、素敵な年を迎えるための講座です。

講師：藤井 敬三氏 (NPO法人「シリア大学」理事長・日本笑い学会講師)

定員：二〇名(申込順)

費用：五〇〇円

問合先：あじさい会館管理事務室

TEL 042-709-3000

ボランティア協会 12月のよてい

日	時間	内容
6(水)	13時半	定例理事会
	15時半	広報委員会
9(土)	12時	冬のほかられ
11(月)	13時	ぼら通部会
		黄色いレシートキャンペーン
14(木)		講座検討委員会
16(土)	10時	HC委員会
	13時	事務局委員会
18(月)	13時	ぼら通印刷
19(火)	13時	ぼら通発送

バオバブ

クリスマスロビーコンサート

日時：十一月六日(水) 正午〜午後一時
場所：あじさい会館一階ロビー

内容：

ハンドベル演奏：ほつとぎょくくろの相模原合唱：第2けやきおんがくたい
マリンバ、フルート演奏：ダブル・エム

定員：五〇名

申込：不要、直接会場へ

問合先：ハンドメイドショップバオバブ

TEL 042-757-6772

(担当：川瀬 小田島)

始めたい！続けたい！

地域支えあい活動に向けて

人材育成・発掘・継続のための取組み

日時：十一月十八日(月) 午後一時〜四時

(午後一時半開場)

場所：あじさい会館ホール

内容：

講義：ボランティア・住民活動をめぐる現状と今後の動向

講師 川上 富雄氏

(駒澤大学文学部准教授)

活動報告：パネルディスカッション

相模原市内での人材の育成・発掘・継続のための取組み

申込：不要、直接会場へ

問合先：

相模原市地区社会福祉協議会事務局

TEL 042-704-6275

自然と共に暮らす

相模原市で一番を目指します！

株式会社市川電設は社員、家族を幸せにする為に、技術、知識を学び、経験を積み、人として成長し、人のために役立つ事が、出来る人になります。

昨今、世界中で環境破壊や資源保護に対する関心が高まっています。地球温暖化を防ぐためには、全ての人々が今の生活スタイルを変えて、認識を高めるとともに、実際にCO2削減に努力する必要があると考えます。こうした中、弊社では、「オール電化による地球環境にやさしい暮らしづくり」の事業展開を開始し、さらに積極的に取り組んでまいります。

地元に着目し、地元で愛されるエコ企業を目指しております。これからも長いご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

企業理念／こだわり

成長する事、人間として成長しよう。

周りと共に達成しよう、そして、素直で真面目で謙虚になろう。

地域・社会に貢献する事、周りと共に楽しくやろう。家族を幸せにしよう、そして、地域・社会に喜ばれるようになろう。

利益を追求する事、常に考えよう、想いを伝えよう、そして、付加価値を作っていく。

結果・正しい社会が成り立ち、人は成長し、社会が発展をする。

相模原市で活躍する会社紹介



株式会社 市川電設

代表取締役 市川 雄士さん (34歳)

本社：〒252-0216

相模原市中央区清新4-8-1 1

電話 042-703-1923

E-mail: info@ichikawadensetsu.com

HP http://www.ichikawadensetsu.com

(公社)相模原青年会議所 常任理事



市川 雄士さん

電気設備工事

受変電設備工事、架空配線設備工事、屋内配線設備工事
太陽光発電システム工事、HEMS/BEMS 工事、LED 工事

通信設備工事

移動体基地局設備工事、ネットワークシステム工事
ビジネスフォン、オートロックシステム工事
防犯、監視カメラシステム工事

空調設備工事

ルームエアコン、業務用エアコン設置・洗浄工事

事業内容

南地区のハンディキャブ関係者の交流会

11月4日(土) 11時30分から、相模大野の中華料理 吉好亭(きっこうてい)で南地区ハンディキャブ関係者交流会が行われました。運転者・事務局員 10名の方々と、吉留(よしどめ) 副会長・杉本理事・加藤ハンディキャブ委員長が参加しました。食事をしながら、主に10号車の代替え車両の導入(平成30年2月、ホンダ N-BOX+)について、日程や新車両の特徴の説明(回転シートなし、乗車定員3名など)と、それらに対する意見交換を行いました。そこで出されたご意見のいくつかを紹介します。

- ・**回転シートの利用者**に対し、車いすを常備して、それを使って乗車してもらう方法を検討
- ・**4名運行**(車いす利用者+付添い者+運転者+介助者)の場合、11号車で運行を検討
- ・**スタッドレスタイヤ**については、積雪になることがほとんどないので不要なのでは

ハンディキャブを
よ

仲間

ボランティア活動は
会社の経営にも役立つ

福島 惇

今春のボランティア養成講座でハンディキャブ活動を知りました。八月の国土交通省認定運転者講習を修了した後、自家用車での運行(セタン運行)に参加しています。以前、脳梗塞を患った友人たちと温泉などを旅行していますので、障がいのある方々の外出を支援することについてはある程度経験がありました。今回、更に学びたいという思い、ハンディキャブ活動に参加しました。

現在映画会社を経営しています。六年前に、リーマンショックの時期に退職を余儀なくされた方やご高齢の方や障がいのある方と一緒に立ち上げました。これらの仲間たちは高い技術を持っていて、現在主に大学や人工知能ビジネス関連のCM作りと、ドラマ作りに励んでいます。

ボランティア活動としてハンディキャブ活動以外にも録音奉仕会に参加して、現在新聞の朗読をCDに落としています。更に、ヒップフアミリークラブに参加し、二十一年のご家庭の皆さんとの交流を行っています。これらのボランティア活動の考え方や経験は、会社の経営にも役に立っています。

趣味はピアノの演奏です。ヒップフアミリークラブの活動に必要なドイツ語の勉強も兼ねて、現在モーツァルトの「魔笛」に挑戦中です。皆様、よろしくお願ひいたします。



お知らせ

セダン運行の「対価」据え置き

セダン運行(運転者の自家用車を使用して行う運行)の運転者に支払う全運行距離(※)kmあたりの対価を、今年度下半期も引き続き下表に示す金額で運用します。



	車両の種類	対価
1	軽自動車、ハイブリッド車	20円/km
2	5ナンバー車(1項の車両除く)	30円/km
3	3ナンバー車(1項の車両除く)	40円/km

※走行距離は自己申告。但し、対象外の走行距離に注意。

活動いろいろ

運行ボランティアの養成

毎年開催されるボランティア養成講座の「福祉車両の運転・介助」コース講座の実施と、それに続く運転者として必要な資格の取得や技能の習得をしてもらうための活動を紹介しします。

加藤ハンディキャブ委員長を中心に事務局の方々の協力をいただき取り組んでいます。

1 実行委員会に参加	毎年4月、講座検討委員会の呼びかけで実行委員会に参加し、講座の企画
2.基礎講座での紹介	6月の基礎講座の最終回に「福祉車両の運転・介助」活動の紹介
3.コース別講座の実施	9月~10月に「福祉車両の運転・介助」コース講座を実施(座学と福祉車両の操作実習)
4.国認定運転者講習の受講手続き	国土交通省による福祉有償運送運転者の資格取得をサポート
5.見習い運行の実施	ベテラン運転者の指導による実際の運行を企画・実施

地区社会福祉協議会 活動紹介 VOL12

“地域にある福祉課題を発見し、みんなで共有し、解決していく”
「福祉コミュニティ形成事業」等の各地区の取り組み

支え合い(愛)相武台 ・ ひだまり相武台

相武台地区社会福祉協議会 高橋孝雄会長

相武台地区社協では、地域の皆さんが住み慣れた場所でいきいきと暮らせる福祉のまちづくりを目指し、様々な事業に取り組んでいます。

★平成 29 年 4 月 1 日現在
人口 19,678 人
高齢化率 (65 歳以上) 32.4%
年少人口率 (14 歳以下) 9.9%

① 支え合い(愛)相武台 ～地区ボランティア(見守り活動員)による見守り活動～



一人暮らしの高齢者など見守りを希望する方を対象に、月 1 回、見守り活動員が自宅を訪問。声かけや見守りを行い、いつもと変わった様子があると活動員から高齢者支援センターに連絡します。

② 交流の場 ひだまり相武台

気軽に集まり交流できるひだまりのような場所を作ろうと「ひだまり相武台」をマンションの一室に開設しました。「ひだまり相武台」では「ひだまりカフェ」(第 2・4 水曜日の午前 10 時～正午)をスタートし、のんびりくつろげる、みんなの居場所として賑わっています。

連絡先：市社協 相武台地区担当 三田響子 TEL042-765-7065

支えあい活動 ～東林いきいき塾・東林いこいの広場～ 東林地区社会福祉協議会 阿部匡秀会長

東林地区社協では、「居場所が必要」「活動のためのボランティア・担い手が必要」と地域の課題を話し合い、「東林地区の支えあい活動」をテーマに取り組んでいます。

★平成 29 年 4 月 1 日現在
人口 40,932 人
高齢化率 (65 歳以上) 25.8%
年少人口率 (14 歳以下) 10.4%

① 東林いきいき塾

地域活動の担い手・身近な学びの場づくりを目指す「東林いきいき塾」では、「ボランティア入門講座」をはじめ、子どもの居場所等をテーマに「福祉啓発講座」を開催。また、中学生等を対象に「ヤング防災ボランティア体験講座」を実施するなど、地域福祉活動へのきっかけづくりに取り組んでいます。



② 東林いこいの広場

食事やコーヒーを楽しみながら、気軽におしゃべりできる地域の交流の場として、多い時には 150 人を超える来場があります。「東林いこいの広場」は、ボランティアが運営し、カレーやうどん、トーストなどメニューも豊富で夏には冷やし中華も登場。挽きたてのコーヒーは味も香りも格別です。「友だちもできたし、スタッフのみなさんも気さく」と大盛況です。



連絡先：市社協 東林地区担当 田中敦子 TEL042-765-7065

ボランティアさん募集！



障がい児者の運動会のお手伝い

- 内 容 自閉症者の運動会で、運動のサポートと運動会運営の補助。
- 日 時 12月17日（日） 午前9時45分～正午
- 場 所 けやき体育館（中央区富士見6-6-23）
- 持ち物 室内履き、タオル等
※動きやすい服装でお越しください。
- 依頼団体 相模原やまびこ会



*連絡・問い合わせ先

相模原ボランティア協会あじさい連絡所：電話 042(759)7982

相模原市社協 中央ボランティアセンター：電話 042(786)6181



なお

《今月のイラスト》
…あなたにとって、嬉しかったことばっ。



みなさまの参加をお待ちしています

ほかほかふれあいフェスタ2017冬 障害者週間キャンペーン！

日時：12月9日（土）12：00～14：30

会場：相模大野駅北口サンデッキ

車椅子ダンス・バンド演奏・よさこいソーラン・ヒップホップダンス・大道芸などなど、楽しいイベントが満載です。



*12月3日～9日は「障害者週間」です。障がい者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障がいのある人も、ない人も、共に楽しく生きていける社会を目指し、ボランティア協会も微力ながらお手伝いしていければいいですね！

読者の皆様へ

寄付者が税制面での優遇措置を
受けられます！

寄付金控除制度の活用を

ボランティア協会では、来年度も、さまざまな事業を展開していくつもりですが、そのためには資金が必要となります。

今年十一月までに寄付をしていただくのをご確認申請の間にお願いします。

詳細は、当協会に問い合わせ下さい。
*認定NPO法人

相模原ボランティア協会

電話 042・759・7982

会員の皆さまには払込取扱票を同封しますので、よろしくお願ひします。

(総会禁止画業賞金)

編集後記

上溝ふくしまつり（上溝公民館）に点字体験のスタッフとして参加。

子どもたちの来場が多く、楽しんでくれました。名前が打てたらうれしくなっていて二度も三度も来てくれた子も。楽しみながら福祉の活動が自然に身に付いたらいいですね。
(三)

